

# “レディ・ガガ現象”の意味するもの：本ブログの圧倒的ベストセラー

Greatchain

2019/05/08

このブログの「レディ・ガガ:魂をイルミナティ暗黒集団に売ったことを後悔」(2017/09/25) <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170925.pdf> という翻訳記事が、発表して2年近くになるにもかかわらず、今もほぼトップで、連続して読まれている。一時的に2位3位に下がることもあるが、またトップを奪う、しかもダントツ多数という現象が、このところずっと続いている。これは私の予想しなかったことである。きっと、我々のこのブログは「レディ・ガガのブログ」と呼ばれているのではなかろうか？ これはどう考えても、社会現象といってよいだろう。これをどう考えるべきか？ そこでその分析を試みることにする。

そのサブタイトルは、「生涯の初めに、自分の身体に“暗黒の霊的実体を招き入れた”と告白」となっている。そして訳者注には、「この話は、イエスが悪魔から契約を持ちかけられ、〈オレに跪けば何でも欲しいものをくれてやろう〉と言ったという聖書の話によく似ている。しかし結果は反対だった」と、ごく簡単に書かれている。

まず、一つのポイントとしては、悪霊というものが存在し、これが他者の身体に出入りするということがある。レディ・ガガがウソをついているのではないことは明らかである。こんなウソはつけるものではない。のみならず、読者は覚えておられると思うが、アイルランドで多くの人々が、何者かが自分の中に入ってきたと訴えて、教会に助けを求めて飛び込んでくるが、あまりに多数でとても対応できず、もっとエクソシストを養成してほしいという正式な要望が、ある神父から出されているという話を紹介した。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180202.pdf>

ご存知のように、こんな話は、**学界とメディア**では認められず、そもそも「魂」などというケツタイなものは存在しないことになっている。それは口にしてさえならないものだ。あるのは、脳の発する意識の様態だけである。そして、このような偉い科学者の言うことだけが真理である——我々の間ではこういう**迷信**が長く続いた。しかし、これが打破されつつあることは、この「レディ・ガガ現象」が、これだけ長期にわたって続いていることからだけで

も、証明できるであろう。これは唯物論科学の方法が間違っていると言うのではない。それしかありえず、それ以外の仮説は認めないと言うことが、馬鹿げていると言っているのである。私はこれを誇って言っているのではない。私はこれを訳しただけである。しかし、このような**迷信の逆転**が起こっていることは事実である。

更にこのエピソードは、悪魔が実在し、「悪魔に魂を売る」ということが、現実であることを明らかにしている。私たち大多数は、特にキリスト教信者などは別にして、悪魔の存在も、悪魔に魂を売ることも、単なる比喩だと思っていた。ゲーテが『ファウスト』という大作で扱ったような「ファウスト伝説」(地上のすべて富、名誉、知識を、自分の魂と交換する話)は、比喩でなく、本当の話であることがわかった。そして、イエスが悪魔から試みられ、「お前が私にひれ伏すなら、この世界のすべてをくれてやろう」と言ったという聖書の話も、本当のことであることがわかった。レディ・ガガに対する悪魔の試みは、規模が小さいだけで、そして誘惑の結果が逆になっただけで、そのパターンは、イエスに対するものと全く同じであることがわかる。

そして今、現実には、特にアメリカを通じて起こっていることが何であるか、何の争いが起こっているのかが、このレディ・ガガのエピソードを通じて、手に取るように分かってくる。これは霊的争いであり善悪闘争である。我々は神と悪魔の代理戦争を (ETのすべてを巻き込んで) やっている。これに照らしてみれば、なぜ深層国家側のやることが、正常と思えず、キチガイじみているかがわかってくる。それはサタン (ルシファー) のやることが、人間の行動の動機を超えているからである。サタンの行動の動機は、人間の欲しがめるカネでも土地でも権力でもない。それはサタンがくれてやろうと言う、「お前の欲しいすべて」ではない。それは神から、神の創ったすべてを奪うことである。

だから、ペドフィリアを蔓延させ、道徳を破壊し、ジェノサイドをけしかけ、ダーウィン進化論を押し付け、唯物論を奨励しても、何ひとつそれが、「彼ら」の目的自体でなく、彼らの儲けになるわけではない。彼らは、神の創った最高の価値である我々人間を、墮落させ、腐らせ、狂わせることが目標である。それは我々を殺したり、我々の家や財産を奪ったり焼いたりすることではない。彼らが欲しいのは我々の「魂」であって、生物学的生命ではない。なぜなら、人は死んでもまた生まれ変わるが、「魂」は死んで彼らのものになれば、蘇らないからである。

だから彼らは、レディ・ガガのコンサート会場に爆弾でも落とせば簡単なのに、そうはせず、彼女を彼らの貴重な戦力として使っている。これはイエスの場合でも同じで、この宗教界の有名人を殺すのではなく、墮落させて、自分たちの戦力に組み込もうとしたのだが、そうはいかなかったのである。

今アメリカで、特にトランプ大統領に反対する勢力を通じて起こっていることを、よく見るなら、それが同じ霊的戦争であることがよくわかるであろう。(何度も言うが、トランプのやっているのは役割であって、彼が聖人であるわけではない。)

紹介はしていないが、トランプ大統領が側近たちとともに、祈祷している写真を載せ、彼が「祈りこそ最強の戦力だ」と説教しているニュースがある。これは正しい。なぜなら今起きているのは霊的戦争であって、武力の戦争ではないからだ。また、祈祷や瞑想が現実を動かすことが実証されているからだ。そういうことを全く知らず理解もできず、これを見て、「頭の悪い奴が自分で考えて打開しようとせず、神頼みをしておるわい」などと、馬鹿なことを言う連中がどこにも大勢いるはずである。トランプが正しく祈っているとすれば、それは神頼みでなく、神に協力する誓いであり、その上で、自分を正しく導いてくれと、祈っているはずである。

——以上